



木星も欠けて見えます

明け方の東の空に、木星が輝^{かがや}くシーズンがやってきました。7月14日の衝^{しょう}（太陽-地球-木星が一直線に並ぶ時）に向かえ観測^{こうそく}の好機となり、世界中で多くの画像^{がぞう}が撮^とられています。



この写真は今年8月27日にまるちたいけんドームの疋田純之^{ひきた あつし}解説員^{さつえい}が撮影したものです。特徴^{とくちょうてき}的な2本の縞^{しま}模様^{もよう}と木星大気中の巨大な渦^{うず}である、大赤斑^{だいせきはん}（Great Red Spot）が見えています。

また、よく見ると木星の右側が欠けているのに気がつかれた方もいらっしゃるでしょう。木星は外惑星^{がいわくせい}（太陽の周りを、地球よりも外側^{きどう}の軌道

で回っている）ですが、このようにわずかに欠けます。今頃から10月半ばにかけて、もっとも欠けが大きく、木星から地球を見ると太陽から最も離^{はな}れて見える時期にあたっています。

大赤斑と反対側^{おひ}の帯の中に明るく輝く白い点のような模様が見えます。この部分では、強力な積乱雲^{せきらんうん}が発生していると考えられています。そしてこの白い点は、数週間で周囲に広がり、大きな大気^{りょういき}の乱れた領域^{たね}を作り出す種^{たね}のようなものであることが知られています。

大規模^{だいきぼ}な大気^{おひ}の乱れは、時には縞模様全体^{はな}を覆^{おほ}いつくすほど発達^{はったつ}することがあります。今後の変化に注目したいところです。

（解説員^{かいせついん}：田部一志^{たべいし}）